

＊  
ときの話題ウチナーンチュ（沖縄人）の  
ありふれた戦中・戦後体験新中浜  
上地 源光

沖縄県中頭郡読谷村字楚辺の貧しい農家の次男だった私の父は、1934年、18歳の時にテニアン島に渡りました。5年後には顔も知らない母が、嫁として父のもとへ行き、必死に働いて沖縄に仕送りをしました。42年に兄が、その後、姉が二人生まれました。

太平洋戦争の敗色が濃くなり、サイパンが陥落、やがてテニアン島も陥落しました。家族は、戦火を逃れるためサイパンの近くにあるアギガン島へわたり絶壁の中にある洞窟で45年8月まで身を潜めていました。そこで長姉は餓死しました。テニアン島は原爆を投下したB29爆撃機エノラ・ゲイの攻撃基地になりました。

米軍に投降した避難民たちは、戦後もまもなく沖縄に送り返されました。沖縄の住民のほとんどが難民収容所に入れられていました。家族は沖縄本島の泡瀬キャンプに収容されその後、脱走して石川キャンプに移りました。その間に次姉も栄養失調で亡くなりました。

1947年3月、両親と兄は収容所から故郷読谷村の楚辺へ帰還が許されました。帰ると、集落や畑があった場所は金網に囲まれ、広大な米軍基地となっており、立ち入ることができません。家があった場所は軍需物資の集積場になっており、その年の11月、私は生まれました。

元の集落へ戻れない住民は、基地を囲む金網の外に、へばりつくようにバラックを建てて暮らすしか術はありませんでした。生活のための仕事は、奪われた土地の上に、米軍基地を建設すること、でした。

1950年になるとアメリカは恒久的な基地建設に本格的に着手し、沖縄のいたるところで新たな土地取り上げと基地建設を進めました。家、屋敷や耕作地を失った人たちは、基地建設労働に従事するほかありませんでした。土地を奪われた上、その土地の上に米軍基地を建設することに反発が広がりました。そこでアメリカは戦前と同じように移民政策で対応しました。ブラジル、アルゼンチン、ボリビア等への移民、そして、石垣島、西表島への開拓移住でした。父の兄弟では五男がボリビアに、三女がアルゼンチンに移民しました。

父は、石垣島への移住を決意し、1951年8月、石垣島の米原へ入植しました。私が3歳半の時でした。開

拓は困難を極め、マリアアで大勢の人たちが犠牲になりました。

私は10歳の57年7月に伯母（父の姉）のもとへ養子に行くことになり、読谷村（嘉手基地の北側の村）の楚辺に戻りました。

小学校6年生の6月30日、午前の授業中に全校生徒がグラウンドに集められました。校長先生から、「今、宮森小学校にジェット機が墜落して燃えている」と聞かされました。10km東にある学校で小学生11人を含む17人死亡、210人が重軽傷を負いました。

高校3年の6月11日、学校の北側にある読谷飛行場で、ベトナム戦争中の米軍の軍需物資投下訓練がありました。鉄板に載ったトレーラーが近くの集落に落下。5年生の棚原隆子さんが圧殺されました。数日後、米軍に抗議する村民決起集会が、高校のグラウンドで開催され、高校生全員が参加し、学校から事件現場までデモ行進をしました。戦争は終わっていませんでした。

私の体験は、特別ではありません。ウチナーンチュ（沖縄人）のありふれた戦中・戦後体験の一例です。



元気で健康な

## 西内野地区をめざして



西内野コミュニティ  
協議会  
健康福祉部長  
高橋 正

西コミ協健康福祉部主催の健康教室が昨年から始まりました。本年度はより健康づくりに踏み込んでフレイル、認知症、転倒など三大予防的を絞り、年度末までに3回シリーズで開催いたします。

まず第一回は先般7月16日に開催されました。

体組成計による筋肉と骨のバランスや握力を調べる健康チェック、その後古川講師による講演と体操が行われ、特に体操は大好評の内に終わりました。

最近ではテレビ、新聞雑誌等で健康、病気に関する情報、話題等が多数取り上げられています。私自身、若い頃は健康がどうかかあまり考えずにいましたが、70歳を越えた今、身体のあちこちが痛い、何となくだるい、目がかすむ等、身体の不調が出て来ています。では健康ってなんだ、取り敢えず運動すれば良い事はわかりません。しかし腰痛がひどくジョギン

グ、ウォーキング、山登り（若い頃は大好きでした）はほぼできなくなりました。

そんな中、健康教室での体操は家の中でも出来るので、多めに参考になりました。

まずは、明るく元気で活力ある西内野地区を目指して皆さん外へ出しましょう。外へ出てお陽様に当たり、身体を動かして、人とおしゃべりして下さい。そんな事が健康への第一歩ではないでしょうか。

この様な事を踏まえての健康教室の開催です、大勢の方々に参加していただき、健康チェックと体操教室は多いに外へ出て、人とおしゃべりしてストレス発散していただく場所だと思います。

三回シリーズの健康教室、第二回の開催日は10月8日（土）に予定しています。第一回同様大勢の方々の参加をお待ちしています。



## 「新川橋物語」

### 第十回 大萩橋

越後新川まちおこしの会  
世話人 加藤 功

「大萩橋」はかつて、「奥手山橋」又は「奥寺山橋」と呼ばれ、新川開削時から架けられた橋の一つです。

明治29年7月の横田切れの大洪水では、西蒲原郡内の排水が新川に集中し、金蔵坂の砂丘部が崩壊しました。慶応年間に伏せ替えられた底樋は老朽化し、かつ土砂の堆積で通水能力が半分以下になっていました。

当時新川と西川の立体交差付近の川幅は現在の2倍程で、川の中に中州があり、中州迄の橋と対岸までの2本の奥手山橋が架けられていました。

明治38年の水害で金蔵坂の砂丘部がさらに削り取られる被害が出ました。新潟県は河川法を適用し、西川改良工事の付帯工事として、五門の木製底樋から煉瓦とコンクリートの九門暗間にする事で、上流部の湛水被害を少なくする改修案を発表しました。

これに対し通水能力が向上する事で旧広通江に水が逆流するとし、先祖の取り決めた契約書を盾に内野村民が、新川を埋めたてようとした。

この対立を調停したのが旧中之島町出身で衆議院議員の大竹貫一と、旧黒崎町板井出身の萩野左門（後の新潟市長）でした。

新たに広通江の吐口を金蔵坂下流へ移動するための水路開削費の補填や、内野村への補償などの調整を図る条件で騒動は未然に防止されました。

この功績を称え、二人の一字をとり旧名「奥手山橋」を「大萩橋」と改名し、少し下流に架け替えました。

内野中学校裏の広道江（川）は、大正6年に掘られた河川です。

昭和35年3月「大萩橋」は、架け替えられ現在に至っています。

下記の二次元コードを読み取ると、大萩橋の映像がご覧いただけます。



現在の大萩橋。内野側から内野西（現在の地名）を望む。静田神社の社が見える。





### キュウリのパリッと漬け

夕映えの会 小川マキ

#### 材料

- ①キュウリ 3本
- ②塩 小さじ 1/2
- ③ショウガ 10g (千切り)
- ④調味料
  - しょう油 大さじ 4
  - 砂糖 40g
  - 酢 大さじ 1
  - タカのツメ 1 (種を除く)

#### 作り方

- ①キュウリは5ミリの輪切りにし、塩を振り30分置く。
- ②耐熱容器に調味料を入れ電子レンジで加熱する。(600Wで1分)
- ③キュウリの水気を絞り調味料の中へショウガと一緒に入れ、再びレンジで1分加熱する。  
冷めるまで、時々かき混ぜて冷蔵庫に保存する。  
※大き過ぎるキュウリや少々鮮度の落ちた物でもパリッとします。  
※熱を通してあるので、日持ちします。  
※ご飯にもお酒のつまみにも合います。  
※何と言っても誰でも(私でも!)簡単にできるのが最高。



## 地域の声・話題コーナー

### 小玉ねぎの丸ごと煮感想

「新玉ねぎは柔らかくて甘くて美味しい! ジャガイモも後から入れて煮てみました、美味しかった!」

「新玉ねぎをチンしてバター醤油で食べるのも美味しいよ」などたくさんの感想を貰いました。



### お元気会の予定

#### 9月

- とき 9月29日(木)  
10:00~11:30
- ところ 西コミセン
- 内容 佐藤千恵子先生のヨガ教室



#### 10月

- とき 10月27日(木) 10:00~11:30
- ところ 西コミセン
- 内容 体操と介護の話(ケアマネージャー)

### 夕映えの会と健康友の会 共催新企画

- とき 9月22日(木)  
9:00~12:00
- 集合・解散 西コミセン
- 内容 小林正弘先生と  
護国神社の石碑を  
巡る



戊辰の役戦死者の慰霊碑

## 団体さん のらっしや~ん

「みんなが先生、みんなが生徒」  
自主サークル「コスモスの会」

高橋 泰子

「コスモスの会」は、70~80歳代、10名程の会員で、内野まちづくりセンターを会場に、週一回、リハビリ体操(体しゃつきり体操)を行っています。  
西区では、フレイルを予防し、日常生活の自立、運動習慣を身につけるため「体しゃつきりリハビリ体操教室」を3~6カ月単位で開催しています。2012年秋の教室を終了後に、自主サークルでの運動継続をすすめられ「コスモスの会」は発足しました。会員の入替はありながら、間もなく10年。  
指導者はいないので、プログラムに添って順繰りにみんなが先生になり声掛け、みんなが生徒になって1時間程体操をします。途中休憩、水分補給を行います。  
会員の中には、家族の介護をされている方、一人暮らしの方、畑作業に励まれる方もおり、様々な経験や悩みも出し合い、雑談の中にも役に立つお話もたくさん。「暑い中、来たくない時もあるけど帰りは足取りが軽い、来てよかった」などの声もあり体操の効果を実感しつつ、皆が参加しています。

高齢者に学ぶ伝統食づくり

第七回 たかがナス漬

されどナス漬



地域密着ティサイビス  
えんでこ  
伊藤 優子

スマホを片手にナス漬をネット検索してやってみるもの、母親やおばあちゃんの味には近づけません。というわけで、今回はゆづりえの畑で採れたナスを使ってナス漬に挑戦しました。

「ナスの漬物を教えて下さい」とお願いすると「いつ食べるの?」と聞かれます。そこから逆算し、すぐに食べたい時は半分に割ったり、ナスのお尻に十文字の切り込みを入れて漬汁がすぐに馴染むようにすると聞きました。3日後位ならヘタをつけたままにし、少し位大きいナスなら塩を振ってよく板ずりすれば柔らかく漬かるとお聞きしました。そして何とここが紫紺の色艶を出すコツだそう!その後ミョウバンを入れた木板ずり。水を入れ漬汁の味見をして甘ければ塩を足します。昨今の減塩ブームは漬物にはなじまないご様子。「そんなに甘ければ漬け上

りの色が悪くなるし、傷むてー」と一喝。漬物文化の奥深さを知りました。

親やお姑さんから聞いて、或いは仕込まれて人それぞれの味、そのお宅の味があると思えました。少し忘れることが多くなった皆さんですが、体に染みついた漬物作りの感覚はいたって健在です。

私たちが若い世代はそこを受け継ぎ、健康も考え減塩にも挑戦しなければいけないと思えました。

「私、少しお砂糖を入れるわよ」

「昔は食べるものが無かった時、おやつ代わりに生のナスをかじったものよ」と弾む会話の中に「私はそんなことしたことないわ、若いから!」と。

今日も「えんでこ女子高生」のような賑やかな笑い声が響いていきます。



秋に読みたい

読み聞かせたい

私のおすすめの一冊

「へいわってすてきだね」

詩 安里有生

画 長谷川義史

この絵本は2013年、当時小学生1年生だった安里有生(ゆうき)君が、沖縄県平和祈念資料館が募った「児童・生徒の平和へのメッセージ」によせた詩に絵本作家の長谷川義史さんが絵をつけたものです。

新中浜の遠藤富子さんは「子ども」のことで語るこの絵本、とて



もステキです」と紹介して下さいました。

編集後記

旧広通川(江)は、夏の川遊びのメッカでした。両岸は石垣になっていて、石と石の間にフナやナマズやカニなどが潜んでいました。石垣の隙間に差し込む指先に生きた獲物の感触が伝わってくる瞬間。「おおいたぞ!」、興奮して仲間と声を掛け合いました。川遊びには「儀式」があり、上級生からの命令が下ります。「橋から飛び降りろ」、命令は絶対。泣いてもダメ。「泣くな、ほら行け!」と蹴飛ばされて川の中。橋の上では悪ガキどものヤンヤの喝采。それで泳ぎをおぼえた子も。ご褒美は道中かっぱらってきたウリやスイカ。冷えた体を橋の上で温めながら食べた味は格別でした。新川橋物語を読んで、懐かしい記憶がよみがえりました。(M記)

Information

夕映え新聞 通信員大募集

お住いの地域のとおき情報をお知らせください。

季節が夏から秋に移る頃、読者のみなさんの身の回りのこと、ペットの可愛らしい様子や季節の花々など写真一枚を添えてお送りください。

編集責任者 高橋 実

電話 025-264-5000 ゆうえい会

携帯 090-2661-8249

メール takahashi\_m@niigata-min.or.jp

【配食事業部】 070-4453-5228 (小島)

見守りとあわせて食の確保をお手伝いさせていただきます。込み合っていますので、利用日のご相談をさせていただきます。

【生活支援】 070-4314-3980 (神立)

夕映えの会の助け合い活動で、草取りやお買い物・お出かけ等の移動支援を行なっています。お気軽にご相談下さい。